

# 令和2年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進		
<b>1 一人一人の児童生徒の尊重</b> 学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	<b>2 友達への思いやり</b> 子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。	<b>3 道徳・心の教育の充実</b> 学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)
保護者、児童、教職員いずれの項目も肯定的な評価が90%を超えている。特に児童は積極的に思っている層が一番高い。保護者の中にはできていないとする層もあり、教職員は一人一人を大切にするために、指導や対応の方法をなお一層考えるべきだと思われる。	保護者、児童、教職員いずれの項目も肯定的な評価が95%を超えている。児童は非常に肯定的に、保護者と教職員は相対的に、仲良くしていると思っている。思いやりのある行動や言葉がより多く見られ実感を伴うように学校は道徳科及び全教育活動において思いやりの気持ちを育むような教育を続けるとともに保護者への啓発を各クラスにおいてこれからも継続することが必要だと思われる。どちらかというとも仲良くできていないと思っている児童も一部にいる。	保護者、教職員いずれの項目も肯定的な評価が95%を超えている。しかしながら積極的に肯定しているのは半分に満たないこと、保護者の中にはまだ満足していない層も5%いることに鑑み、「礼儀、生命尊重、思いやり」の教育に道徳科及び全教育活動において心を育む教育の充実になお一層励まねばならない。

②確かな学力を育む教育の推進		
<b>4 意欲的な学習態度</b> 子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	<b>5 授業力向上</b> 先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	<b>6 ICT活用</b> 先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。
保護者、児童、教職員いずれの項目においても肯定的な評価が90%以上となっており、昨年度との比較においても向上的な変容が見られる。授業力向上の変容でも肯定的な結果が得られていることから、日々の授業の工夫が形になっていると考えられる。一方、児童・保護者の中には否定的な回答も見られることから継続して授業の改善に取り組む必要がある。	保護者、児童、教職員いずれの項目でも肯定的な評価が90%以上となっている。特に児童においては、昨年度よりも約20%ほど、肯定的な評価が向上していることから、各学級での日々の授業の工夫・改善の成果が表れているといえる。一方、児童、保護者ともに、否定的な評価も見られることから、今後とも授業力の向上に努めていく必要がある。	休校中のオンライン授業をはじめ、学習にICT機器を活用する機会が増加した。そのため、昨年度よりもそれぞれ肯定的な回答が増加している。特に教職員においては肯定的な回答が100%であるが、児童・保護者の中には否定的な回答もみられる。来年度は、児童が一人一台のタブレットを持つことになるので、教師はICT機器を効果的に使う指導法を研究し、児童や保護者にもICT機器の活用へのよさを感じてもらふ必要がある。

③健やかな体を育む教育の推進	
<b>7 健康づくり</b> 子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。	
健康習慣については、ほぼ定着していると児童・保護者ともに同率回答している一方、教職員における評価は低い傾向にある。運動の二極化、生活習慣や食習慣の個人差が大きい、メディア接触時間の長時間化などの課題解決に向け、すこやか会を中心とした地域ぐるみの健康づくりを、さらに推進する必要がある。	

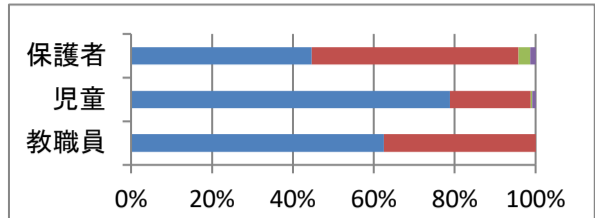
①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実		②特別支援教育の推進	
<b>8 児童生徒理解</b> 先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。	<b>9 いじめや問題への対応</b> 学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。	<b>10 学校の支援体制</b> 学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	
職員の意識と子どもや保護者との意識に少し差がある。職員が子どものよさを理解すること、また見つけたよさを保護者にも形として伝えていく必要がある。子ども同士がそれぞれのよさを見つける取組は各学級で行っているため、その効果的な活用を職員が図っていくとよい。	毎月のアンケートなどでいじめの早期発見に努めているが、「どちらかといえばそう思わない」という回答も見られる。今後はアンケートに書けなかった部分にも目を向けて、全職員で情報を共有し子どもたちの細かな変化を見取り、気になる子どもには気がかけて声をかけるなど日常の中でいじめの芽を摘んでいきたい。	昨年度より、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が高くなっている。教職員が100%であるのに対し、保護者の回答で「どちらかといえばそう思う」があることから、今後も特別支援教育の啓発が必要であると考えられる。	

## ①子どもたちの身近な安全対策の充実

## ②最適な学習環境の整備

### 11 安全と事故防止

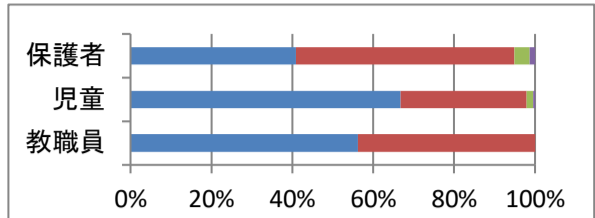
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



教職員は「4 そう思う」または「3 どちらかといえばそう思う」と答えた割合が100%で、迅速かつ真摯に取り組んでいると自信を持って対処していることが伺える。保護者、児童とも「4 そう思う」または「3 どちらかといえばそう思う」と答えた割合が95%を超え、普段の取組や対応が伝わっている。保護者や児童に学級・学校便りで周知すると更に安全についての意識も高まる。

### 12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

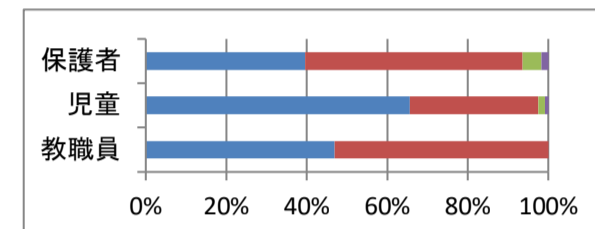


保護者や教職員の「4 そう思う」または「3 どちらかといえばそう思う」と答えた割合は高く、日常における教職員の誠実・迅速な対応が保護者に評価されたと捉えている。今後も、毎日の施設安全点検を入念に行うと共に、日頃から遊具や用具の使い方について指導を繰り返し子どもの事故防止に努めている。

## ③家庭・地域社会との連携強化

### 13 教育方針・目標の理解

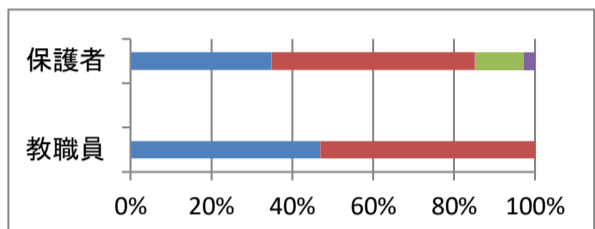
学校は、学校の教育方針や教育目標などをわかりやすく示していると思いますか。



保護者も児童も約95%が「4 そう思う」「3 どちらかといえばそう思う」と回答した。教職員においては100%である。保護者への学校だよりでの発信による周知がより一層図られたと捉えている。教職員も児童へ「目指す子ども像」を意識した活動に取り組んだ成果である。

### 14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

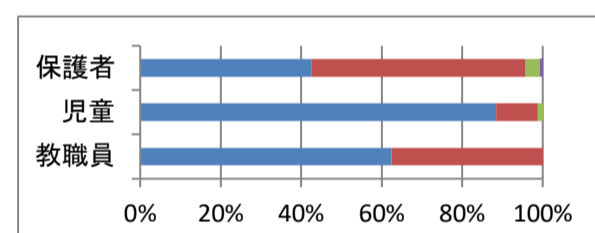


教職員の「4 そう思う」「3 どちらかといえばそう思う」は100%、保護者は85%と高く、日常における教職員の誠実・迅速な対応が評価されたと捉えている。しかしながら保護者の「2 どちらかといえばそう思わない」「1 そう思わない」の割合が15%の数値を示していることから、保護者の気持ちに寄り添い、保護者に納得していただく細やかな対応を行っていききたい。

## ④本校の教育

### 15 1生命を大切に教育の充実

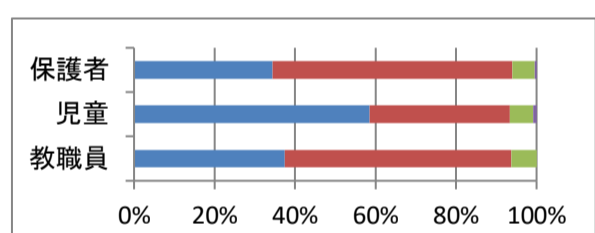
学校は生命を大切にする子どもの育成を進めていると思いますか。



保護者も児童も約95%が「4 そう思う」「3 どちらかといえばそう思う」と回答した。教職員においては100%である。保護者に学校だよりや学級通信などで取組を紹介した成果であると捉える。今後も道徳教育や健康教育等を通して「生命」を大切にする教育の充実を図る。

### 16 2学び合いのある授業

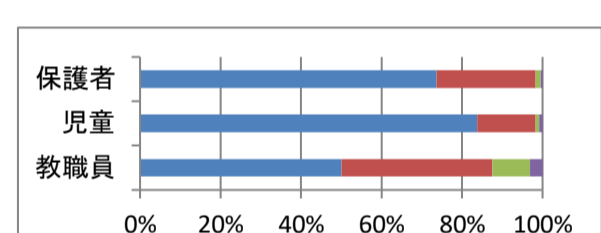
子どもたちは、よく考え、友達と意見を交流したり、教えあったりすることができていると思いますか。



本年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため学習形態を変えづらいこともあったが、保護者、児童、教職員いずれの数値も肯定的評価が90%を超えている。各学級における授業の工夫、安心して語り合う学級風土が広がっていると考えられる。学び合いを深めるために、今後も多様な学習形態の活用等、工夫改善を行うことで更なる向上が見込まれる。

### 17 3スクールプライド

砂取小学校が好きですか。



保護者も児童も約95%が「4 そう思う」「3 どちらかといえばそう思う」と回答した。砂取小の教育活動への評価が高いことが伺える。教職員の12%が「2 どちらかといえばそう思わない」「1 そう思わない」と回答したことから、働きやすい環境づくりを行う必要がある。

## 来年度の具体的な取り組みについて

○教育目標方針については、さらに分かりやすく、学級・学校だより、諸団体会合などあらゆる機会を通して情報発信を行う。また、全校朝会での講話や児童会活動などにおいても、教育目標に向けての取組が見えるように意識していく。来年度は「生命」を大切にする子どもの育成を軸としたカリキュラム・マネジメントを更に追求し教育の充実を図る。

○豊かな心を育む教育の推進においては、道徳科の充実した授業実践と道徳教育の取組、更には家庭・地域と連携した「心の教育」の充実を図る。親子道徳の日は、今後も続けていきたい。さらに、子どもの伸びを見とる道徳の評価の在り方について研究を深めるとともに保護者への啓発に努める。

○確かな学力の充実のために「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業力向上に向けた研修の充実やICT環境の整備と活用を図り、「より分かる・楽しい授業」を真摯に求め続ける努力を続ける。

○健やかな体を育む教育の推進に関しては、運動の二極化、生活習慣や食習慣の問題を抱える児童がいる。また、一人一台のタブレット貸出に伴い「SNSを含めたメディア」について、使い方を含めたルール作りやメディアによる弊害についての知識を深め、児童・保護者ともに啓発を進めていく必要がある。給食での食育や健康指導などの取組も、SDGsの視点から更に推進し、家庭や地域、PTAなどともタイアップして計画を進める。いずれも学校保健委員会を中心に系統的な指導に心がけたい。新型コロナウイルス感染症感染防止をできる限り行っていく。

○いじめや不登校などに対して、組織としての相談体制をさらに強化する。生徒指導部会や校内支援委員会などにおいて迅速できめ細やかな対応を組織として心がける。特別支援教育についても校内支援委員会を中心に支援体制を充実させるとともに、学校だよりや保護者説明会、学級懇談会など家庭や地域へ積極的な啓発を推進する。

○児童の安全に関しては、最適な環境の整備のために、毎月の安全点検が形骸化しない工夫を行い、常に多数の目で学校施設を点検していく。安全教育の視点からは、避難訓練を通し「自分の命は自分で守る」を繰り返し指導し、自分で判断する力を育てていく。

○地域との連携のために砂取安心メールを活用して学校だよりや授業参観への呼びかけを行うなど学校を広く公開し、さまざまな場面で地域の方々も参加しやすくする。さらに、クラブ活動や、総合的な学習の時間の講師、緑化活動、登下校の見守りなどさまざまな活動に対し今後も「学校支援ボランティア」を募集し協力を呼びかけ連携を推進していく。

○「砂取小学校は好きですか」の設問に対し、95%以上の肯定的な評価をいただいた。さらに100%となるよう、安心安全で楽しい学校生活ができるよう、個人面談や保護者との細やかな情報共有などの取組を強化するとともに学校の様子を発信することも重要であると考えている。全職員一丸となって取り組んでいきたい。

## 学校関係者評価

○砂取小学校の教育活動が理解され高く評価されている証である。更なる高みを目指し無理のないよう子どもたちと寄り添い教育活動に励んで頂きたい。

○スクールプライドの部分に気がなった。教職員の好きではない割合が少し高いのはなぜなのかと感じた。来年度以降はそういったギャップを埋めていき教職員の方々にも砂取小が好きになってもらえるよう、我々保護者がどのようなことで好きになって頂けるかを考えていきたい。